

10周年記念アーカイブズ特別展

「日本の近現代建築家たち」に関する企画の経緯と展覧会の特徴

小林 克弘*¹ 小池 周子*² 門間 光*³ 王 聖美*⁴

The Process of Planning and Characteristics of the Exhibition of National Archives of Modern Architecture [NAMA] 10th Anniversary Special Exhibition

"Japan Architects in NAMA"

KOBAYASHI Katsuhiko KOIKE Shuko MONMA Hikaru OH Seibi

Since its opening in May 2013, the National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs (NAMA), run by the Agency for Cultural Affairs, has been collecting materials related to modern architecture, spreading architectural culture to society through its exhibitions, and pursuing what an archive should be. This article records discussions and opinions in the planning process for the special exhibition "Japan Architects in NAMA" to commemorate the 10th anniversary of the NAMA, along with contents of the actual exhibition and its visual scenes.

キーワード：建築設計競技、建築博物館、国立京都国際会館、国立西洋美術館

architectural competition, architectural museum, Kyoto International Conference Center, National Museum of Western Art

1. 本稿の目的

文化庁国立近現代建築資料館 National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs [NAMA] (以下 NAMA) は、2013年5月に開館して以来、重要な近現代建築関連資料を収集し、その展示を通じて建築文化を社会に広め、調査研究活動を通じて資料館 (アーカイブズ) のあるべき姿を追求するという役割に応えるべく活動を行ってきた。設立10周年を迎える現在、コレクション (所蔵資料群) は30に及び、手描き図面を中心とした建築資料数は20万点を超えた。設立10周年を記念する本展覧会は、こうした10年間の活動の成果をまとめて公開すると共に、今後の活動の方向性を見いだすべく、開催された。

設立10周年の記念および展示内容をめぐっては、さまざまな検討を行った。その結果、日本の近現代建築の展開にとって重要な意味をもつ、12名の建築家たちの収蔵資料群を選びすぐって紹介することとなった。期間に関しても、通常の3か月程度ではなく、2部に分けてそれぞれ3か月程度、合計では約半年にわたる展示を行うことによって、10周年記念にふさわしい質と量を備えた展覧会になることを目指した。

「第1部：覚醒と出発」では、建築家たちが欧米の近代建築を学んだ末に生み出した、日本の近代建築の発

展に貢献した作品、あるいは、その建築家の名を一躍世に広めた名作などを展示した。それぞれの建築家たちがどのような想いと情熱から作品を発想し実現させたか、さらにこれらの作品が社会や建築史においてどのような評価や位置づけとなってゆくに注目した展示とした。第1部では、展示作品の数を絞り、ひと作品について多くの図面を鑑賞できるように配慮した。

「第2部：飛躍と挑戦」では、建築家たちの飽くなき挑戦の数々を紹介することを目指し、代表的な作品のみならず、未完に終わった名作や設計競技 (コンペ) への意欲的な応募案を加えた展示を通じて、生涯かけて挑み続ける建築家たちの創造力と生きざまを、多面的に紹介することを目的とした。

第1部と第2部はそれぞれのテーマを持っており、展示作品も異なるので、両方を鑑賞し、近現代建築家の活動をより深く理解できる展示となるよう、2部構成ならではの効果が生まれるように配慮した。

本稿は、10周年記念展の基本方針の検討経緯および実際の展覧会の特徴をまとめることを通じて、NAMAの10周年の成果をどのように認識し、展示に結び付けたかという点を記録することを目的とする。紀要末尾の業務報告には、写真なしの簡潔な文章の報告が掲載されるが、本稿は、検討の経緯を含め、その内容と特徴

*¹ 国立近現代建築資料館 主任建築資料調査官、工学博士*² 元・国立近現代建築資料館 研究補佐員、修士 (工学)、現・Amanek Inc.*³ 元・国立近現代建築資料館 研究補佐員、博士 (工学)*⁴ 国立近現代建築資料館 研究補佐員、学士 (工学)

を、写真を含めることでヴィジュアルな記録とすることを旨とする。

2. 展覧会の方針をめぐる検討

2022年末から、10周年記念展、つまり10年間の活動を象徴的に表現できる展覧会はどうあるべきかという問題意識をもって、展覧会方針の具体的検討を始めた。

最初は、必ずしも建築家を限定しなくとも、著名な作品あるいは重要な収蔵資料を年代順に展示する、あるいは、なんらかの類型別に展示するという方針も検討した。しかしながら、NAMAの資料収集は、基本的には建築家単位でフォンド(資料群)をつくるようなやり方で進められたことを考えると、建築家を大きくくりとして考えることが自然であろうという方針が固まった。また、建築家によって資料の量は異なるが、ある程度まとまった量の資料、できるだけ網羅的に収蔵された資料が存在する建築家を選ぶことにした。網羅的といっても、建築家の活動のすべての時期を通じてということではなく、ある限られた時期でもよいので、その時期の作品はできるだけ網羅するかたちで収集がなされた、という意味としてとらえた。

また、展示物については、かなり厳選したとしても、相当な量の展示になることが自明であったので、通常の3か月程度ではなく、2部に分けて、それぞれ3か月程度、合計では約半年にわたる展示を行うこととした。そうした方針のうえに、まず、以下のような具体的な方針を決定した。

収蔵資料の広がりや深さを示すために、まとまった収蔵資料を有する著名建築家12名を選ぶこととした。そのうえで、作品の選定に関しては、近現代建築の展開において重要な役割を果たした建築作品を核として、これまで公開できてこなかった名建築をできるだけ優先することとした。2部構成なので、前半と後半に展示が分かれるが、12人の建築家を6人ずつ2グループに分けて展示するのではなく、なんらかの主題のもとに、前半後半両方に12人の建築家の展示がなされるようにするという原則で企画の詳細を練った。その結果、以下の3点が決まり、これが展示作品選定の主たる方針となった。

① 前半・後半の展示は、資料を時系列に沿って整理して、前半：日本における近代建築の定着、後半：個性化・多様化する建築群、に分けて展示する。特に後半においては、代表的な実施作品のみならず、未完に終わった名作や設計競技(コンペ)への意欲的な

応募案を加えた展示とすることを決めた。

② 作品の選定に関しては、これまでの展示作品と多少の重複が生じることはある程度やむを得ないが、その場合には、展示図面の種類を変えるなどの工夫を行い、新規展示という印象を高めるように配慮する。併せて、第1部では、展示作品の数を絞り、一作品について多くの図面を鑑賞できるようにするという方針を決めた。

③ 設計競技応募図面を展示する場合は、収蔵資料の中から、できるだけ複数の建築家の応募図面を展示することとした。それぞれの提出図面すべての展示はできないので、案の違いが分かる図面の抜粋展示として、併せて、全図面を印刷した小冊子を作成し展示することで、設計競技資料の全体像を鑑賞できるように工夫した。NAMAが、実施作品の図面のみならず、設計競技の応募図面も収蔵に加えていることはひとつの特色であり、さらにこの10年間の活動で、ひとつの設計競技に関して、複数の建築家の応募図面を収蔵するに至ったがゆえに、複数の建築家案を比較展示できることが当館の大きな特徴であることを、企画作業を通じて再認識した次第である。

こうして、展示作品の方針が決まったとはいえ、展示において、NAMAがアーカイブズであるということやどのように展示に反映させることができるか、という点も大きな検討課題であった。この点については、図面資料のみならず、アルバム、スケッチブック、カメラ、新聞記事、日記など資料の広がりを展示することで、単なる建築展ではなく、アーカイブズが行う展覧会であるという特徴を表現することとした。結果的に、展示室の中央テーブルをこれらの多様な資料群の展示に当てることとして、アーカイブズとしての展示であることを象徴的に示すこととした。

以上が展示の大方針となったが、併せて10年間の活動を紹介展示するために、以下の2点を検討・実施した。

① 10年間の展覧会を総覧できる展示

ロビーにおいては、NAMAの概要・目的・10年間の歩みを紹介するパネル、これまでのポスター、チラシ等の展示、NAMAコレクションの建築家年表冊子、作成したオーラルヒストリーやアーカイブズ教材の上映を行い、NAMAをより広い視点から理解いただくための工夫を行うこととした。これらの作成資料のいくつか(たとえば、NAMA紹介パネル、NAMAコレ

クションの建築家年表など)は、記念特別展終了後も、継続的にNAMAの広報に役立てることができるように配慮した。

② これまでに作成したオーラルヒストリーの公開過去の展覧会にて作成したオーラルヒストリーは、繰り返し見る価値が高いものが多く含まれている。それらのうち、展示内容と密接に関係するオーラルヒストリーを展示室内において上映し、直接的な関連をもたないオーラルヒストリーは、ロビーにて放映した。

なお、企画段階で検討した内容のうち、10周年展で実現できなかったこともある。それらについては、展覧会の特徴と実際を述べた後に、本稿の末尾で触れたい。

3. 展覧会の具体的内容—第1部

会期 令和5年7月25日(火)～10月15日(日)

- ① 前川國男・坂倉準三・吉阪隆正 国立西洋美術館
- ② 大高正人 千葉県文化の森

- ③ 菊竹清訓 出雲大社庁の舎
- ④ 高橋就一 佐賀県立図書館
- ⑤ 岸田日出刀 ベルリンオリンピック視察写真
- ⑥ 丹下健三 広島平和記念資料館
- ⑦ 原広司 粟津邸
- ⑧ 安藤忠雄 住吉の長屋
- ⑨ 吉阪隆正 ヴィラ・クウクウ
- ⑩ 吉田鉄郎 別府市公会堂
- ⑪ 坂倉準三 神奈川県立近代美術館
- ⑫ 前川國男 晴海高層アパート
- ⑬ 大谷幸夫 国立京都国際会館
- ⑭ アーカイブ展示 大高正人
- ⑮ アーカイブ展示 岸田日出刀
- ⑯ アーカイブ展示 吉阪隆正
- ⑰ アーカイブ展示 吉田鉄郎
- ⑱ アーカイブ展示 坂倉準三
- ⑲ アーカイブ展示 前川國男
- ⑳ 映像(下記に詳細)
- ㉑ 映像(下記に詳細)
- ㉒ 過去展覧会会場写真スライドショー
- ㉓ 過去展覧会ポスター及びチラシ裏面

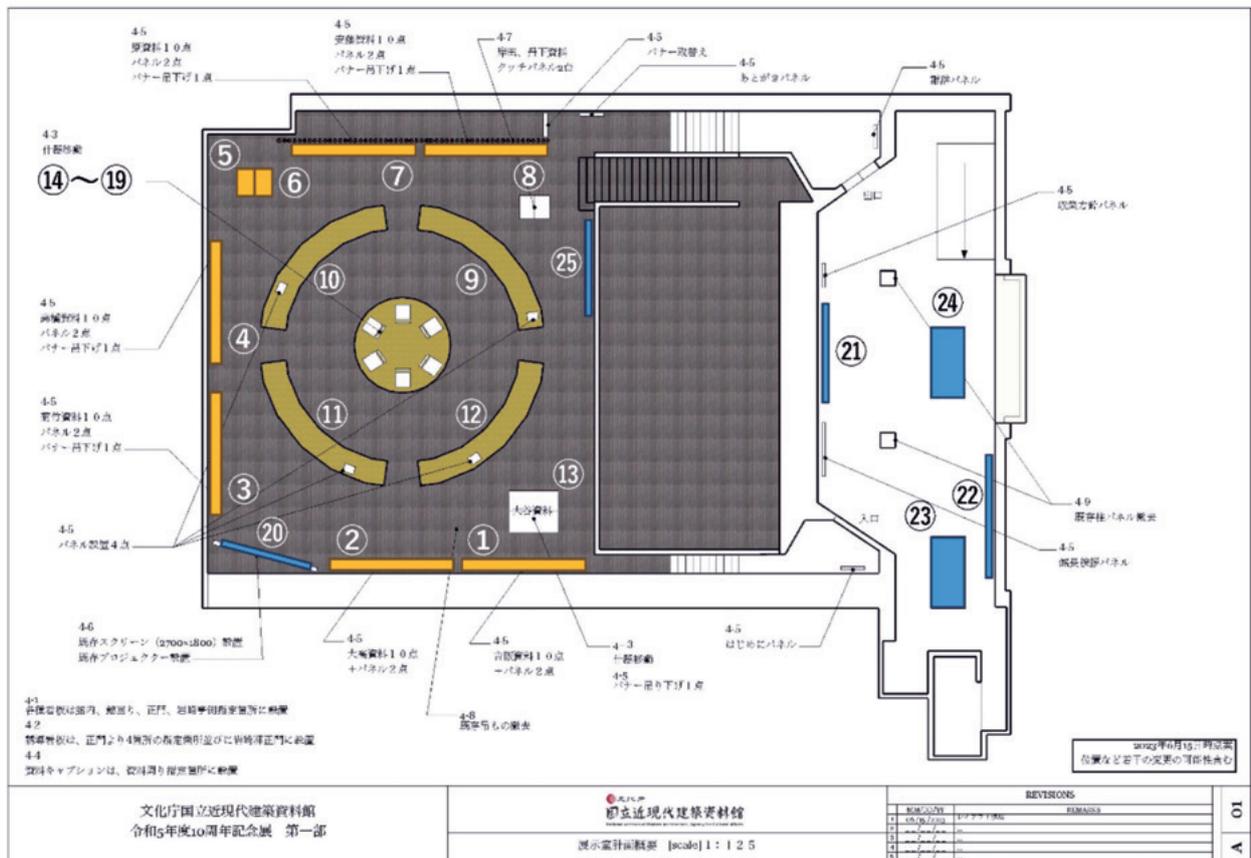


図1 展示計画平面図および展示物の内容(第1部)



エントランスタイトルウォール



アーカイブ展示 岸田日出刀



ロビー 10年間の収集・展示活動の紹介



菊竹清訓 出雲大社庁舎



会場全景



吉田鉄郎 別府市公会堂

④ 過去展覧会図録

⑤ 展示資料関連スライドショー

オーラルヒストリー視聴覚映像の公開

これまでに作成したオーラルヒストリーを編集し、第1部で9本を公開し、会期終了後には、文化庁公式YouTubeチャンネル bunkachannel において公開した。
https://www.youtube.com/playlist?list=PL_

ndIdjX38cDY2GoEbHMBmd9kqxh25UUZ

Theater NAMA Part 1 計63分

- ・2013年「人間のための建築 建築資料にみる坂倉準三展」にて作成したオーラルヒストリーより
北村脩一 鎌倉近代美術館の部分を編集
辰野清隆 鎌倉近代美術館の部分を編集
- ・2014年「建築のこころ アーカイブにみる菊竹清訓」

展にて作成したオーラルヒストリーより

穂積信夫 菊竹は怒っている

- ・2015年「ル・コルビュジェ×日本 西洋美術館を建てた3人の弟子を中心に」展にて作成したオーラルヒストリーより

藤木忠善 西洋美術館

- ・2015年「みなでつくる方法 吉阪隆正+U研究室の建築」展にて作成したオーラルヒストリーより

吉阪正邦、吉阪昭治 家族の思い出自邸とU研究室

- ・2019年「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋」展にて作成したオーラルヒストリーより

内田祥哉 個人と組織

Theater NAMA Part 1 at Lobby 計75分

- ・2016年「建築と社会を結ぶ—大高正人の方法」展にて作成したオーラルヒストリーより

横文彦 大高正人との出会い

- ・2017年「紙の上の建築 日本の建築ドローイング 1970s - 1990s」展にて作成したオーラルヒストリーより

原広司

磯崎新

- ・2020年「ミュージアム1940年代-1980年代：始原からの軌跡」展にて作成したオーラルヒストリーより
- 青木淳

4. 展覧会の具体的内容—第2部

令和5年11月1日(水)～令和6年2月4日(日)

- A. アーカイブ展示 原広司
- B. アーカイブ展示 大谷幸夫
- C. アーカイブ展示 菊竹清訓
- D. アーカイブ展示 安藤忠雄
- E. アーカイブ展示 高橋誠一・第一工房
- F. アーカイブ展示 大高正人
- G. 吉田鉄郎 東京郵便局
- H. 坂倉準三 新宿西口計画
- I. 坂倉準三 神奈川県庁新庁舎
- J. 岸田日出刀 ゴルフコースと倶楽部ハウスデザイン
- K. 高橋誠一・第一工房 群馬県立館林美術館
- L. 丹下健三 シンガポール・スポーツ・コンプレックス
- M. 忠霊塔設計図案懸賞 応募案

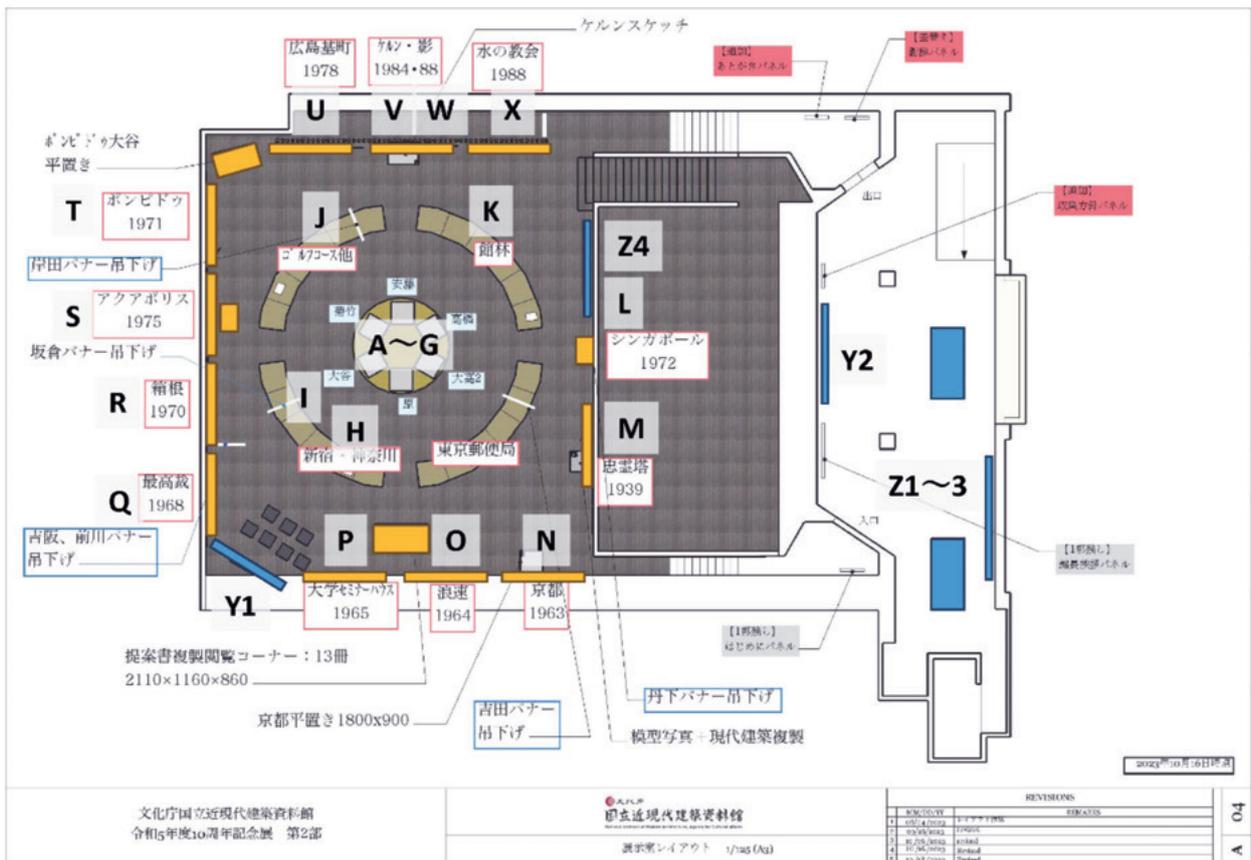
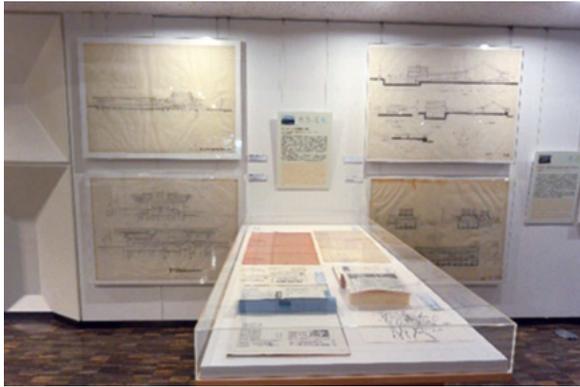


図2 展示計画平面図および展示物の内容(第2部)



N. 国立京都国際会館設計競技 応募案
(大谷案、菊竹案、大高案、高橋案の断面図を比較展示)



H, I. 坂倉準三 新宿西口計画 神奈川県庁新庁舎



T. ポンピドゥ・センター国際建築設計競技 応募案
(右手前に、前川案、大谷案)



W. 原広司 影のロボット
(展示計画図 K の右側のスクリーンに映写中の光景)

- N. 国立京都国際会館設計競技 応募案
 O. 浪速芸術大学学園総合計画設計競技 応募案
 P. 吉阪隆正 + U 研究室 大学セミナーハウス
 Q. 最高裁判所庁舎設計競技 応募案
 R. 箱根国際観光センター企画設計競技 応募案
 S. 菊竹清訓 アクアポリス・沖縄国際海洋博覧会
 T. ポンピドゥ・センター国際建築設計競技 応募案
 U. 大高正人 広島市基町団地・広島県長寿園団地
 V. 原広司 ケルン・メディアパーク都市計画構造国際
 提案競技 応募案
 W. 原広司 影のロボット
 X. 安藤忠雄 水の教会
 Y. 映像 (下記に詳細)
 Z. 過去展覧会関連 (会場写真、ポスター、チラシ裏面、図録)
 / 第1部及び展示資料関連スライドショー

オーラルヒストリー視聴覚映像の公開

これまで作成したオーラルヒストリーを編集し、
第2部で7本を公開し、会期終了後には、文化庁公式

YouTube チャンネル bunkachannel において公開した。
https://www.youtube.com/playlist?list=PL_ndIdJX38cDY2GoEbHMBmd9kqxh25UUZ

Theater NAMA Part 2 計62分

- ・2014年「建築のこころ アーカイブにみる菊竹清訓」
展にて作成したオーラルヒストリーより
遠藤勝勲・小川惇・長谷川逸子 国立京都国際会
議場設計競技について
- ・2015年「みなでつくる方法 吉阪隆正 + U 研究室の
建築」展にて作成したオーラルヒストリーより
戸沼幸市・矢内秀幸 吉阪隆正の建築の方法
- ・2016年「建築と社会を結ぶ—大高正人の方法」展に
て作成したオーラルヒストリーより
藤本昌也・増山敏夫 大高正人のデザイン 1部
抜粋
- ・2019年「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け
橋」展にて作成したオーラルヒストリーより
隈研吾 保存と改修

Theater NAMA Part 2 at Lobby 計49分

- ・2016年「建築と社会を結ぶ—大高正人の方法」展にて作成したオーラルヒストリーより
 袁原敬 PAU とはなにか
- ・2017年「紙の上の建築 日本の建築ドローイング 1970s - 1990s」展より
 高松伸
- ・2020年「ミュージアム1940年代-1980年代：始原からの軌跡」展にて作成したオーラルヒストリーより
 原広司

5. まとめ

以上、10周年記念展においては、NAMAの10年間の活動の成果というべき、NAMAならではの展示のいくつかを実現することができた。ただ、企画段階で出ていたすべてのアイデアが実現できたわけではない。そもそも、すべてを実現することは不可能に近かった。実現できなかった具体的なアイデアを挙げると、たとえば、展示作品のうち現存し見学が可能な作品については、見学ツアーを企画するというアイデアが出た。しかし、これは、必ずしもNAMAでなければできないということでもないため、企画から外した。また、日本各地の類似施設（特に大学に付属する建築博物館や建築資料館）の情報をまとめて、わかりやすく展示する、今後10年の建築アーカイブズの課題をめぐるシンポジウムを行う、アーカイブズの日常的な仕事の内容と重要性を伝える展示を行う、などのアイデアも出た。これらは、NAMAが取り組むべき大きな課題であることは間違いない。今後のNAMAの活動の発展のためにも、ここに記録しておく次第である。

(2024年8月21日原稿受理)